

レジリエンスの目的は防衛にあらず!! 戦略的にすすめて持続的な成長を目指せ!!

2月22日に行われた(株)ブロード主催のセミナー「変化し続ける企業環境におけるビジネスレジリエンスの向上」基調講演ではサイバー攻撃やシステム障害の脅威から企業やサプライチェーンを守るため、何をすべきかが示された。今号ではその内容を詳しくお伝えする。

ビジネスレジリエンスの向上が 持続可能な成長を実現する

基調講演のテーマは「DX時代の持続可能な成長戦略・企業レジリエンスを高めるテクノロジとアプローチ」。登壇したのは、市場調査・技術調査に基づくコンサルティングを得意とする(株)アイ・ティ・アールでシニア・アナリストを務める入谷光浩氏だ。

入谷氏によると、「レジリエンス」とはもともと学術用語で、物理学では「弾力性」、心理学では「回復力」、生態学では「適応力」の意味で使われていた。コロナ禍で世界中の経済や企業活動に深刻な影響が表れた後、

米国で急速に普及しはじめ、「企業や組織が予測できないリスクに直面した際に、それに抵抗しながら迅速に事業を回復し、あ

らたな変化に適応しながらビジネスを継続する能力」を表すビジネス用語として定着したという。同社の調査によると、企業のIT投資はDX推進にともな

って過去最高を上回る勢いで伸びており、入谷氏は「4、5年後には『DX』という言葉が死語になるほど、ビジネスの前提として当たり前になる」と断言。DXを継続してすすめる、持続可能な成長の基盤をつくるためには、サイバー攻撃に対するサイバーレジリエンスと、システム障害に対するシステムレジリエンスというふたつのレジリエンスを向上させ、変化に強い企業として信頼性を高めることが重要だと指摘した。

サイバーレジリエンスと システムレジリエンスの対策

サイバーレジリエンス向上のポイントには「故意であろうとなく、社内外のどこからで

もサイバー攻撃に狙われている。つまり『信用しない』を前提に監視や制御を行う『ゼロトラスト』の観点に立ち、侵害発生率をいかに減らすか、侵害を受け

てもいかに迅速にビジネスを回復させて商品・サービスやサプライチェーンへの影響を最小限にとどめるかが肝心だ」と入谷氏。自社システムの脆弱性を取り除いて攻撃を受ける可能性を減らすASM(アタックサーフェスマネジメント)やペネトレーションテストの導入などが有効になるとした。また、先に紹介されたNeverfall社のContinuity Engine(CE)が有用だ、とも。

また、システムレジリエンスの向上では、システム階層ごとのRTO(目標復旧時間)設定の明確化とともに、「高可用性、影響の最小化、停止時の迅速な復旧という3要素をうまく連動させた運用や多様性を考慮した

対策を行うことが大事」と強調。「これにはNeverfall社のContinuity Engine(CE)を提案したい」と主催のブロード社は話している。

レジリエンス向上は攻めの戦略 実現にはリーダーシップがカギ

入谷氏は最後に「レジリエンスは守りではなく攻めの戦略として考えてこそ、ビジネスの持続的な成長が実現できる」と強調。会場に集まった各企業のITリーダーたちに「社内に対してその重要性を説き、全社的に推進できるように、リーダーシップを発揮してほしい」と呼びかけ、講演を締めくくった。レジリエンス向上のために、ぜひとも数多くの企業に入谷氏が紹介したテクノロジーやアプローチを活用してほしいものだ。なお、不明の点は主催者のブロード社まで。

速に事業を回復し、あ



今までの「常識」は、
すでに「非常識」!

もう無駄な時間と費用は「0」にしましょう



HP Sure Click Enterprise

おかげさまで Bromium は HP Sure Click Enterprise に進化しました



エンドポイントのサイバー対策に関する費用や専門家は、もう必要ありません。
100%* 防御し、レポートします。是非ブロードにお問い合わせください。

*2013年以降、Bromiumは推計20億以上のMicroVMが実行されましたが、侵害報告件数はゼロです。(Bromium社調べ)

詳細は [BROAD Security Square] で ... <https://bs-square.jp/columbus>

株式会社ブロード

〒100-0014 東京都千代田区永田町1-11-30 サウスヒル永田町7F
TEL: 03-6205-7463 (代表)

